opusdei.org

## 属人区長の書簡 (2011年4月)

ヨハネ・パウロ二世の列福 と、教会が掲げるいくつかの 福音書の箇所は、四旬節を心 を込めて過ごし、復活祭に至 るための招きであると、属人 区長は述べます。

2011/04/06

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

常に、四旬節にもまたそうですが、 教会が神のみことばによって私たち に与えてくれる大きな宝を愛しま しょう。それは、復活祭への歩みを 調子よく進めるための霊的活力を新 たにするよう私たちを促します。教 皇様はこう書かかれました。「私た ちは日々、みことばを生きるため に、そのことばを黙想し、自らのう ちに留めることによって、尊く、か けがえのない祈り方を学びます。私 たちの心に語りかけ続けておられる 神に耳を傾けることにより、私たち は洗礼の日に与えられた信仰の旅路 を豊かにします。」[i]

この歩みの導き手はイエス・キリストです。それどころか、主ご自身「私は、道、真理、いのちである」 [ii]と仰せになります。聖アウグスチヌスが、聖ヨハネ福音書のこの箇所を解説して、こう記しています。 「あなたに、『真理といのちに達するために、どこに道があるか、苦労 して捜し求めなさい』とは言われていません。主は、このような言い方をなさいません。それで怠け者よ、起きなさい。道自らあなたのもとに来られたのです。眠っているあなたを眠りから覚まさせたのです。あなたの目が本当に覚めたらよいのですが…。起きて歩きなさい。」[iii]

ヨハネ・パウロ二世の帰天記念日 は、教皇様が教会と世界にお示しに なった神への忠実の模範を思い起こ すときです。その聖なるご死去は世 界中に深い感銘を与えました。あら ゆる年齢層の人々、特に多くの若者 たちの予想をはるかに上回る群れが 聖なるご遺体の側に行こうとローマ に馳せ参じたあの日々において、習 慣や馴れ、ときには罪という覆いで 隠されていることがあるとしても、 多くの人たちの中に信仰が脈打って いることが表れたのでした。しか し、多くの人たちが心から回心し、 再び神に近づくようになるために は、あの忘れがたい2005年4月の 日々に起こったように、聖霊の息吹 があれば充分なのです。

あの超自然的な反応は、しばらく後の4月19日、ベネディクト十六世の選出の際に繰り返されました。そして、教皇様がペトロの役務を開始なさったミサにおいて、「教会は生き

ています!」と力強く宣言されたことに対して、確信と感謝、そったもして私たちは証人となったるまない。事実、教会は、時死らられるとはありません。なぜ復知でいることはありません。なが復活のでありません。なが復活のでありません。なが後れているからです。

信仰に基づくこの確信は、私たちの 希望と超自然的な楽観主義のゆるぎ ない岩として永続するものです。

「私たちがよく理解できるために、 聖書が生き生きと表現しているよう に、慈しみ深い父なる神は私たちを ご自分のひとみのように(申命記 32,10)守られます。その神は、ご自 分の愛する御子が建てられた教のご自 分の愛する御子が建てられた教ので 絶えず聖霊によって聖化なさるで す。」[iv] この聖ホセマリアの言葉 は、世を旅する神の民が生きる多私 の分野で遭遇する困難の中にいる私 ヨハネ・パウロ二世の列福式は、キリストの神秘体の聖性、慰めり教の変しみ、つまり教ので見捨てない至聖三位したのといるといるといるといるといるを登れたの母であるといるの母を強めることにあるといるであることにし、神に願っています。

ハネ・パウロ二世が忠実についてお話になるときには、聖ホセマリアの説教と似通った表現をしておられたことにいつも感動しました。忠実であるためには、何年にもわたる「継続性」が必要不可欠であると断言しておられたのです。

次の四旬節第4主日には生まれつきの盲人が癒される場面が朗読され、

イエス・キリストは世の光であるこ とが表されます。主は、土と神的な 唖でこねられた少量の泥を目に塗 り、「『シロアムー「遣わされた 者 | という意味一の池に行って洗い なさい』と言われた。そこで、彼は 行って洗い、目が見えるようになっ て、帰って来た。」[vi] それから、 福音記者はイエスとその人との対話 を記しています。私たち一人ひとり は、盲人に対する主のこの問いかけ を自分に向けられたものとして考え なければなりません。「あなたは人 の子を信じるか。| [vii] あなたは、 頭で理解するだけではなく、心と意 志、自分の全存在をもって、イエ ス・キリストがあなたの救い主であ ることを、あなたと私のために人と なって死に復活された神の御子であ ることを心の底から本当に信じてい ますか。復活徹夜祭で荘厳に更新す ることになるこの信仰告白は、私た ちに多くのことを要求し、私たちの 全生涯に影響します。利己的な計画

る。生きていて私を信じる者はだれ も、決して死ぬことはない。このこ とを信じるか。」「viii」あの婦人は、 兄弟の死という否定できない痛々し く辛い試練の中にあっても、いのち と死の神への信仰をためらうことな く告白します。「はい、主よ、あな たが世に来られるはずの神の子、メ シアであると私は信じておりま す。」[ix] こうして、奇跡が起こり ました。聖ホセマリアが確言したよ うに、私たちに信仰があるならば、 私たちと私たちがイエスに近づかせ たいと思っている多くの人たちの生 活においても、数多くの奇跡が繰り 返されるでしょう。「決して絶望し てはならない。ラザロは死去し、

てはならない。ラザロは死去し、 『四日もたっていますから、くさく なっています』と、マルタはイエス に告げた。『ラザロ、外に出てきな さい。』 神の霊感を聞き、これに従うなら、 あなたの〈生命〉もよみがえるだろ う。」[x]

創立者は、聖書の霊的な意味に入り 込むために神が彼にお与えになった 洞察力をもって、たびたび、この場 面を掘り下げて考えるよう勧めまし た。1964年、少人数のグループに説 教した際に、こう話されました。

「あの家族の喜び、あの奇跡を目の当たりにした証人たちの喜びを考えるとき、また人々の幸せをお喜びになり、マルタとマリアの涙を見て泣くこともおできになる聖心を持っておられたイエスご自身の喜びを考えるとき、私たちがしばしば繰り返している射祷、omnia in bonum!

(ローマ8,28参照)が思い起こされます。全ては善のために起こるのです。苦しみでさえも、愚かにもそれを長引かせようとしたり、複雑な想像によって自ら造り上げたりしたものでない限り、善いものなのです。

私たちが主のみ手に自分自身を全て委ねるなら、人生において何が起ころうとも、平和と力を引き出すことができるでしょう。神の恩恵が私たちを効果的な道具に変えてくれるからです。」[xi]

四旬節の終わりには、枝の主日から 聖週間が始まります。聖週間は、救 いの歴史における決定的な日々に私 たちを導きいれる門のようです。聖 木曜日の午前、司教は、司祭団と多 くの神の民に囲まれて共同司式ミサ を捧げます。このミサにおいて、祭 壇の聖別に用いる油と洗礼志願者に 注がれる油、また病者の塗油の秘跡 を授けるための油が聖別されます。 洗礼志願者は洗礼を受けることで、 神に仕えるために奉献される祭壇の ようになるのです。さらに、洗礼を 受けた人々がキリストにおける大人 となるための堅信の秘跡に用いられ る聖香油も聖別されます。このミサ の中で司祭たちは、叙階式のときに

宣誓した司祭の約束を更新します。 この典礼において、司祭的な民全 体、つまり司祭と信徒がふさわしる 形で一堂に会するのです。聖なとしい 祭が増えるように、また社会に生かる るキリスト信者がそれぞれの置かれ た場において真剣に聖性を目指すに た場にと、最高永遠の司祭イエスに けて一層強く祈るために、何とふさ わしい時でしょう。

その日の午後には、主の晩餐の夕べ のミサにおいて特にご聖体と司祭職 の制定を記念します。過越の神秘が 秘跡的に更新される「今日」、主が 最後の晩餐で先取りされた十字架の 「今日」は、聖体祭儀のたびに繰り 返されていますが、聖木曜日にはそ れが特別に際立ちます。主の晩餐の 夕べのミサにおいては特別な形で示 されるカルワリオのいけにえの恒久 的な現在性に驚嘆しましょう。この 日のローマミサ典文では、司祭が聖 変化の前にこの大祝日固有の祈りを

唱えます。「主イエスは、私たちとすべての人の救いのためにお受けになった受難の前夜である今日、とうとい手にパンを取り…。」[xii]

私たちを極みまで愛されたイエス・ キリストのこの愛に気づかないまま 通り過ぎてしまわないように、至聖 なる三位一体に願いましょう。十字 架上でただ一度いのちを捧げられた だけではなく、私たちがいつでもど こでも、世の終わりの栄光あるその 来臨まで、主の贖いのいけにえに生 き生きと本当に与ることができるよ うにと、ご聖体と司祭職を制定され たのです。ヨハネ・パウロ二世が最 後の回勅にこう書かれました。「こ の神秘を礼拝したいと思います。そ れは偉大な神秘、憐れみの神秘で す。これ以上のいかなることをイエ スは私たちのためにしてくださるこ とができたでしょうか。イエスは聖 体によって、本当に私たちに『この 上なく』(ヨハネ13,1参照)愛を示

してくださいました。それは、はかりがたいほどの愛です。」[xiii]

聖木曜日の夕べのミサは、翌日の主 のご受難とご死去の記念へと私たち を導きます。「最後の晩餐とイエス のご死去には分かちがたいつながり があります。最後の晩餐で、イエス はご自分の御体と御血を、つまりご 自分の全存在をお与えになりまし た。死を先取りし、それを愛の業に 変えてご自身を引き渡されたので す。」「xiv」この日、聖十字架を礼拝 する際には、贖い主に心を込めて、 徹底的に忠実である望みとともに、 誠実な感謝の言葉を申し上げましょ う。そうすれば、聖性の小路を喜ん で歩み続けるように促されるでしょ う。

こうして私たちはご復活の前夜にた どり着きます。聖土曜日は、主の決 定的な勝利を待ちわびる沈黙と潜心 の一日です。祭壇の布は取り払わ れ、いかなる典礼儀式もありません。ご聖体さえ見当たりません。病人の聖体拝領が必要になる場合のためにのみ、別の場所に安置されているのです。今年の聖土曜日は4月23日で、聖ホセマリアの初聖体と堅信の記念日にあたります。

ご聖体のいけにえを捧げることがで きないというこの状況は、私に創立 者の叙階金祝の日を思い起こさせま す。聖金曜日でしたから、ミサ聖祭 をささげることが摂理的にできな かったのです。しかし、いつものよ うに、多分いつも以上に、固く十字 架のいけにえに一致されることで、 その一日全体が〈ミサ〉となりまし た。この聖なる三日間、私たちのた めになされた主の奉献に強く結びつ き、主の燔祭と特に一致することが できるように、創立者の仲介により 頼むことを勧めます。

そして、復活徹夜祭を迎えます。

「洗礼の約束を更新しつつ、私たちは、『水と聖霊』によって新たに生まれたときに神から与えられたいのちの主がキリストであることを再確認します。そして、キリストの弟子となるために恵みの働きにこたえる決意を再び表明するのです。」 [xv]

最後に、いつものことを繰り返しま す。私の意向のために祈ってくださ い。既にお伝えしたように、ここ数 週間、私の中で大きな比重を占めて いるのは、地震後の日本と、世界の 各地、特にコートジボワールとリビ アの戦争の騒乱のことです。ロザリ オの連願を信仰をもって唱え、〈平 和の元后〉である聖母により頼みま しょう。また、教皇様と固く一致し て過ごし、特にペトロの使徒座へ選 出された記念日である4月19日には 特別な形でそうしましょう。また、 20日に属人区長として教会の司牧職 を遂行することになった記念日を迎える私のためにも祈ってください。

心からの愛情を込めて祝福を送ります。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2011年4月1日

[i] ベネディクト十六世、2010年11 月4日『2011年四旬節メッセージ』 3。

[ii] ヨハネ14,6。

[iii] 『教会の祈り』四旬節第五主日 第二朗読(聖アウグスチヌス『ヨハ ネ福音書講話』)。

[iv] 聖ホセマリア、1972年5月28日 説教『教会の超自然的目的』。

[v] 同上。

[vi] ヨハネ9,6-7。

[vii] 同上 35。

[viii] ヨハネ11,25-26。

[ix] 同上27。

[x] 聖ホセマリア、『道』719。

[xi] 聖ホセマリア、1964年7月22日 の説教のメモ。

[xii] 『ローマミサ典礼書』第一奉献文、聖木曜日、主の晩餐の夕べのミサ、聖変化前の固有の祈り。(邦訳版には未収)

[xiii] ヨハネ・パウロ二世、2003年4月17日回勅『教会にいのちを与える 聖体』11。

[xiv] ベネディクト十六世、2010年3 月31日一般謁見の演説。 [xv] ベネディクト十六世、2010年11 月4日『2011年四旬節メッセージ』 2。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2011nian-4yue/ (2025/12/15)